

無加温ハウスにおける実エンドウの4月どり栽培技術

農業試験場

研究のねらい

本県の実エンドウの主産地は、日高郡の沿岸地域で、ハウス栽培や露地栽培が行われています。両作型が切り替わる4月は市場価格が高いことから、農業試験場ではこの時期の出荷をねらい、紀北地域や中山間地域での無加温ハウス栽培について検討を行いました。特に、4月どり栽培に適した品種、播種日、開花促進法等を明らかにすることを目的としました。

研究の成果

- ①品種は‘きしゅうすい’を用い、10月中旬（15日頃）に種をまきました。栽植密度は、うね幅1.8m、1条、株間隔20cm、1穴4粒播種としました。
- ②本葉2～9葉期に16時間日長となるように電照し、開花促進を図りました。
- ③主枝の第1花が1月20日頃、約20節で開花しました（表1）。
- ④無加温ハウスで栽培し、1月初め頃、内張カーテンを被覆しました。
- ⑤3月下旬から収穫でき、4月下旬までの上物収量は、a当たり約160kgがとれました（図1）。上物率は、約84%と高くなりました。
- ⑥4月中の実エンドウの市場価格は、時期が遅くなるほど安くなりました。a当たり粗収益を旬別上物収量と本県産の旬別市場価格（県農調べ、2002年）から試算すると、約16万円となりました。

成果の活用面・留意点

- ①連作する場合、夏期に太陽熱などを利用して土壌消毒を行うことが重要です。
- ②ハウスを密閉すると湿度が高くなり、灰色かび病などが発生しやすくなるため、厳寒期でも日中はサイドを10～20cm開けるとよいでしょう。

表1 品種、播種日、電照の有無、育苗の有無と開花

品種	播種日	電照の有無	育苗の有無	開花日(月/日)	第1花開花節位
きしゅうすい	10月16日	有	無	1月22日	20.4節
		無	無	2月13日	24.3
		有	有	1月26日	17.9
	10月23日	有	無	2月9日	20.0
		無	無	2月23日	23.0
		有	無	2月21日	19.7
10月30日	有	無	3月1日	22.0	
	無	無	12月7日	8.0	
	無	無	12月27日	7.9	
矢田早生うすい	10月16日	無	無	12月7日	8.0
	10月30日	無	無	1月18日	7.8

栽培期間：2001年10月～2002年4月、育苗苗の定植は11月26日

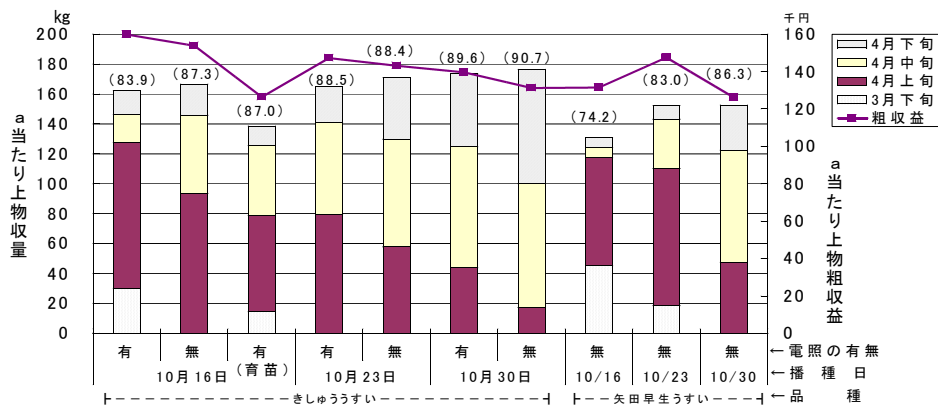


図1 品種、播種日、電照の有無、育苗の有無と旬別上物収量・上物率・粗収益

2001年10月～2002年4月、育苗は7.5cmポリポット、11月26日定植
 ()内数字は上物率、粗収益＝旬別上物収量×旬別市場価格

(問い合わせ先：0736-64-2300)